

第 5 回講義

➤ 微積分の基本公式

1. べき関数：
$$\frac{d}{dx} x^n = nx^{n-1} \quad \int x^n dx = \frac{x^{n+1}}{n+1} + C$$

2. 指数関数：
$$\frac{d}{dx} e^{ax} = ae^{ax} \quad \int ae^{ax} dx = e^{ax} + C$$

3. 対数：
$$\frac{d}{dx} \ln(ax+b) = a \frac{1}{ax+b} \quad \int \frac{1}{ax+b} dx = \frac{1}{a} \ln|x+b/a| + C$$

4. 三角関数：
$$\frac{d}{dx} \sin(ax) = a \cos(ax) \quad \int \sin(ax) dx = -\frac{1}{a} \cos(ax) + C$$

$$\frac{d}{dx} \cos(ax) = -a \sin(ax) \quad \int \cos(ax) dx = \frac{1}{a} \sin(ax) + C$$

➤ 直接積分形： $y^{(n)} = f(x)$ と書き直せる形の微分方程式。この形なら、両辺を n 回積分するだけで解ける。

➤ 変数分離形：一般的表現は $\frac{dy}{dx} = X(x)Y(y)$ で、以下の特徴を持つ微分方程式。

1. **1 階**微分方程式

2. y' を $\frac{dy}{dx}$ と書き直して分数の様に扱うとき、 y を含む項をすべて左辺に、 x を含む項をすべて右辺に移項できる。

➤ 変数分離法による微分方程式の解法：例として $y' = xy$ を取り上げる。

1. 変数分離する。
$$\frac{dy}{y} = x dx$$

2. 左辺を y で、右辺を x で積分する。
$$\int \frac{dy}{y} = \int x dx \quad \rightarrow \quad \ln|y| + C_1 = \frac{x^2}{2} + C_2.$$

※ここで、任意定数は 1 つにまとめること。

3. これで、微分方程式は「解けた」ことになるが、可能な限り陽関数 $y = f(x)$ に変形する。この場合、両辺の指数をとる。 $|y| = \exp\left(\frac{x^2}{2}\right) \exp(C)$ 。

4. 左辺の絶対値を外して、代わりに右辺の任意定数を $\pm \exp(C)$ とする。これも任意定数だから C と置き直し、 $y = C \exp\left(\frac{x^2}{2}\right)$ が最終結果。

※この変形は憶える： $\ln|y| = x + C' \quad \rightarrow \quad y = Ce^x$

➤ 階数の引き下げ： $y^{(n)} + p(x)y^{(n-1)} = f(x)$ の微分方程式。すなわち n 階微分と $(n-1)$ 階微分のみからなる線形微分方程式。この場合、 $y^{(n-1)}$ を変数 u とすれば変数分離形。解いた後、 $(n-1)$ 回積分すれば y を得る。